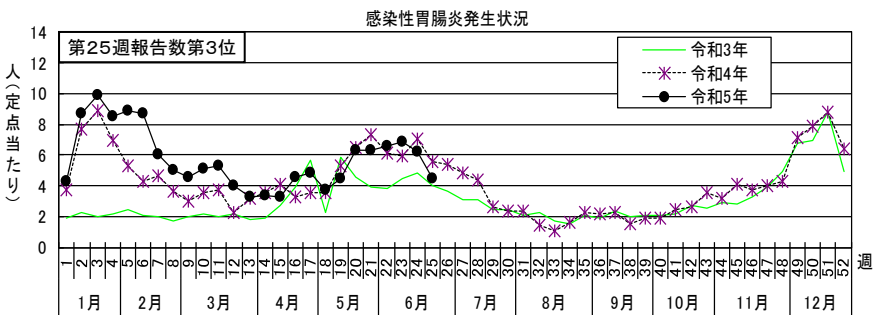
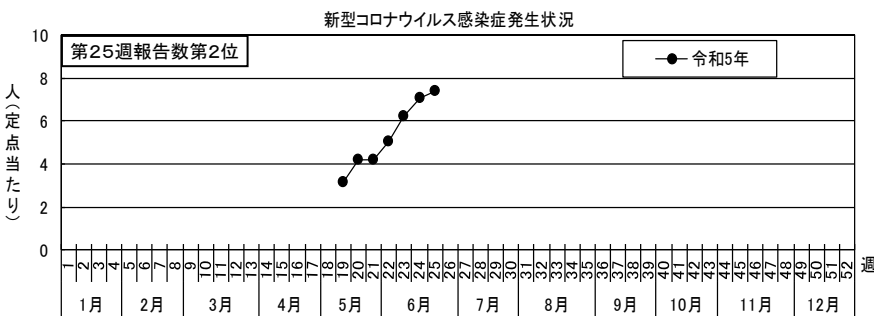
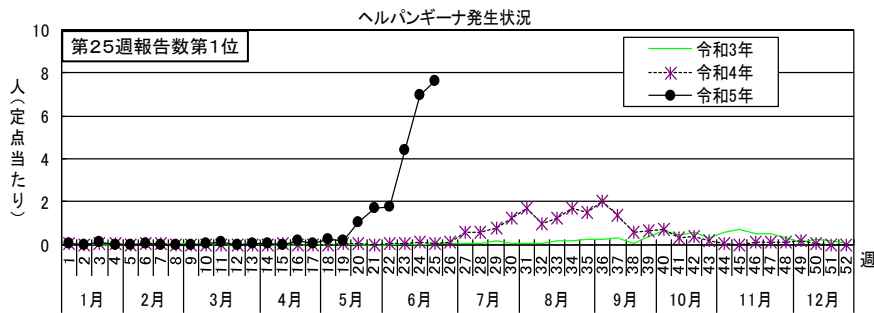


今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和5年6月19日（月）～令和5年6月25日（日）〔令和5年第25週〕の感染症発生状況

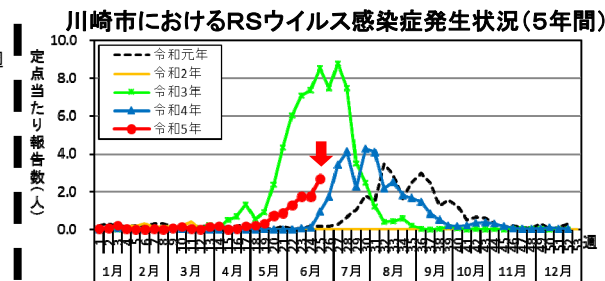
第25週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1）ヘルパンギーナ 2）新型コロナウイルス感染症 3）感染性胃腸炎でした。
 ヘルパンギーナの定点当たり患者報告数は7.65人と前週（6.95人）から横ばいで、例年よりかなり高いレベルで推移しています。
 新型コロナウイルス感染症の定点当たり患者報告数は7.43人と前週（7.07人）から横ばいでした。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は4.49人と前週（6.19人）から減少し、例年並みのレベルで推移しています。



RSウイルス感染症の報告数が徐々に増加しています！

川崎市におけるRSウイルス感染症の定点当たり報告数は、5月中旬から徐々に増加し、令和5年第25週（6月19日～25日）に2.68人となりました。過去10年間で報告数が最多であった令和3年も、5月中旬から7月上旬にかけて報告数の増加がみられており、発生動向には注意が必要です。

RSウイルス感染症は、発熱、咳、鼻汁などを主症状とする急性呼吸器感染症で、生後1歳までに半数以上が、2歳までにほぼ100%の小児がかかるとされています。多くは数日で軽快しますが、生後3か月以内の乳児、早産児や基礎疾患を有する小児等では、肺炎等を起こし重症化する可能性があります。大人から感染することもありますので、風邪症状がある場合は、乳児との接触はできる限り控えましょう。



RSウイルス感染症の重症化リスクの高い方

- ✓ 早産児や生後24か月以下で心肺に基礎疾患を有する小児
- ✓ 神経・筋疾患若しくは免疫不全の基礎疾患を有する小児
- ✓ 生後3か月以内の乳児

RSウイルス感染症とは？

【感染経路】

飛沫感染（患者の咳やくしゃみなど）
 接触感染（ウイルスの付着した手指や物品など）

【潜伏期間】

2～8日（典型的には4～6日）

【症状及び経過】

発熱・咳・鼻汁などの風邪様症状
 *多くは軽症で済みますが、咳がひどくなり、喘鳴や呼吸困難などの症状が出現し、肺炎等を起こす小児もいます。

